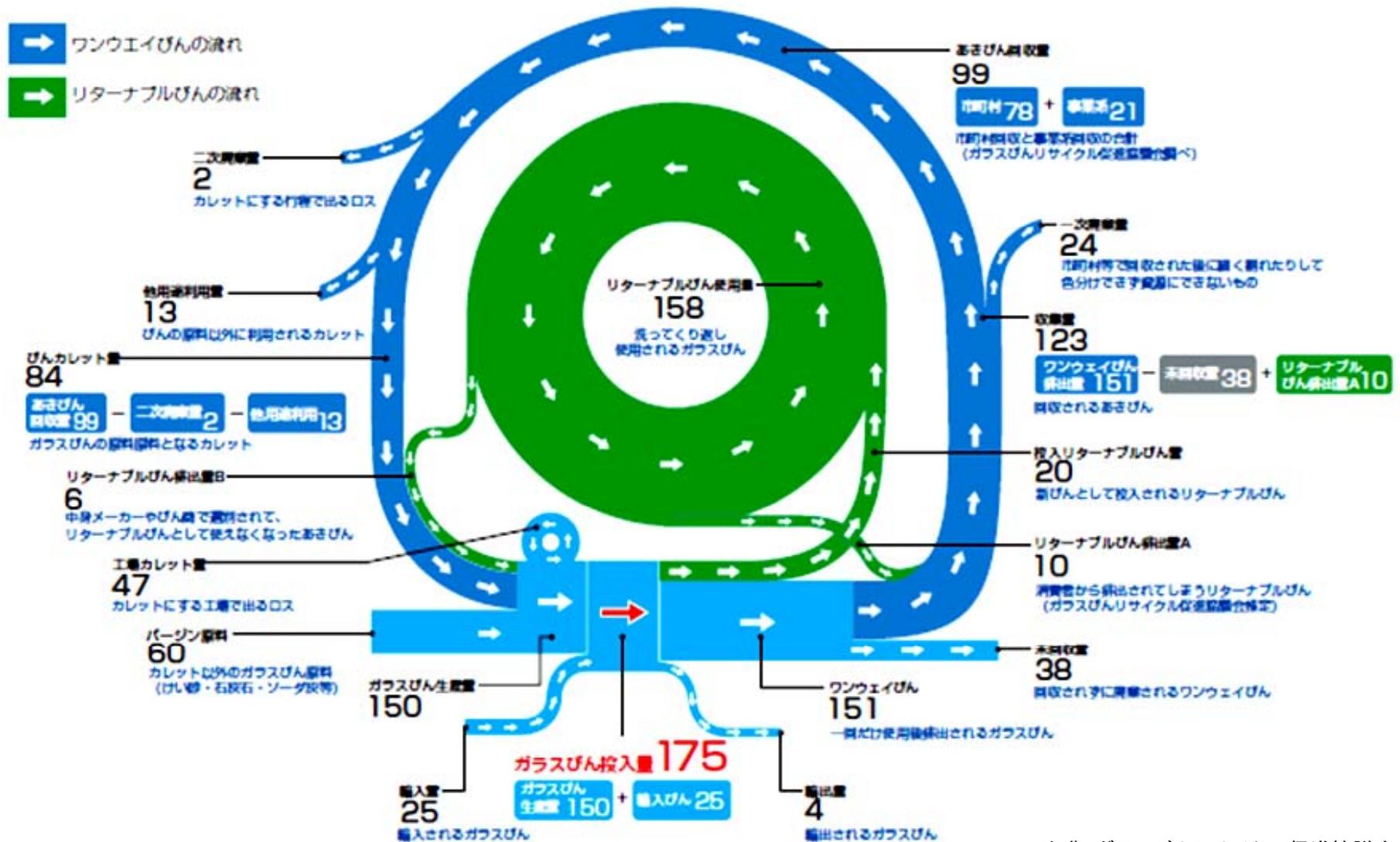


<参考>： ガラスびんのマテリアルフロー

<参考>ガラスびんのマテリアルフロー



出典：ガラスびんリサイクル促進協議会

●カレット利用率91%=(びんカレット量84万トン+リターナブルびん排出量B6万トン+工場カレット量47万トン)÷ガラスびん生産量150万トン

Reuse: リターナブルびん使用量

<現状>

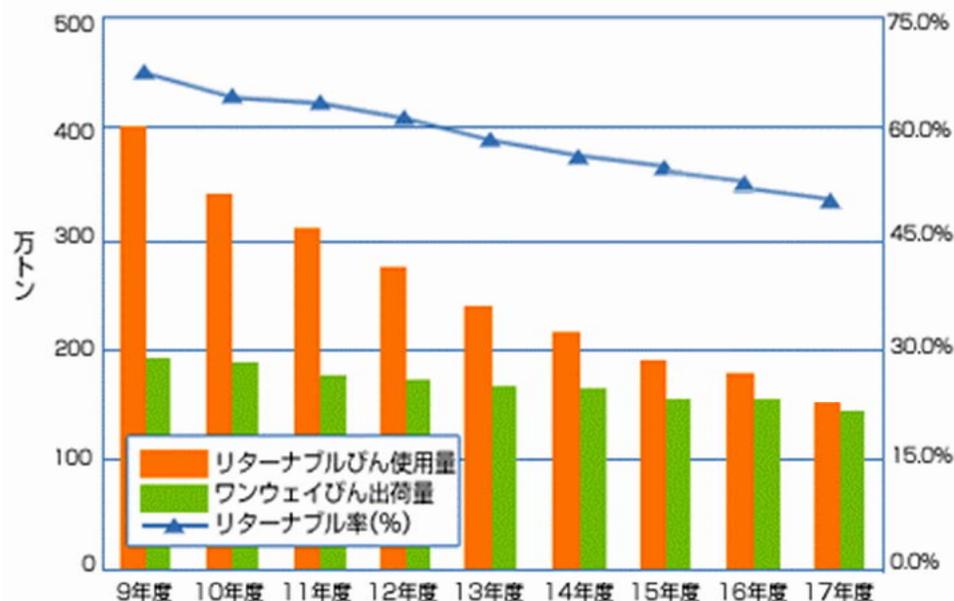
【供給】

・リターナブルびん使用量は、減少しているが、ガラスびん全体の出荷量も減少している。

【需要】

・意識調査「再使用可能な容器を使った製品を買っている」の回答率はほぼ横ばいである。

<供給サイド>リターナブルびん使用量等の推移



出典: ガラスびんリサイクル促進協議会

<需要サイド>再使用可能な容器製品選好率

消費者が再使用可能な容器製品を選択する意識・行動の調査結果は以下の通り。

設問	‘01年度	‘05年度	‘07年度
びん牛乳など再使用可能な容器を使った製品を買っている	18%	17%	20%

設問	‘01年度	‘05年度	‘07年度
リサイクルしやすいように、資源ごみとして出すびん等は洗っている	57%	64%	71%

2001年度: 循環型社会の形成に関する世論調査結果
 2005年度: 環境問題に関する世論調査結果
 2007年度: 循環型社会の形成に関する意識調査結果

<参考1>リターナブルびんの定義

実績として平均5回以上繰り返し使用されている、廃棄時にはカレット原料としてリサイクルされる「びん」

出典: ガラスびんリサイクル促進協議会

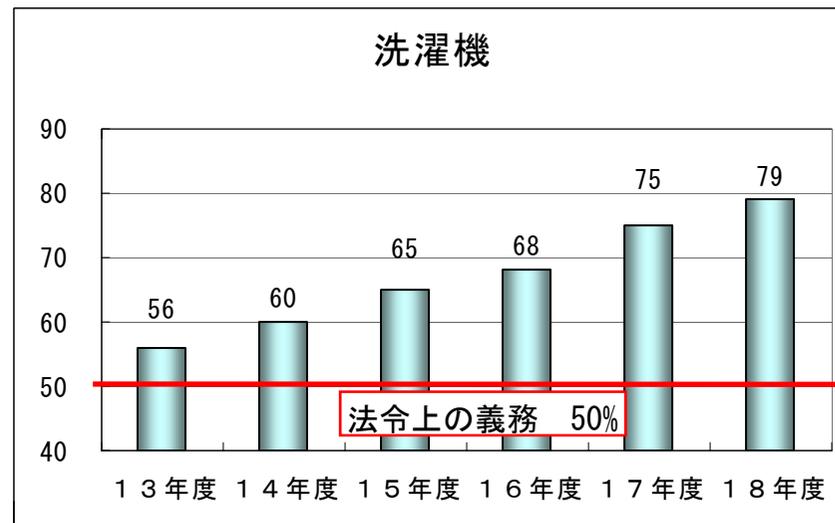
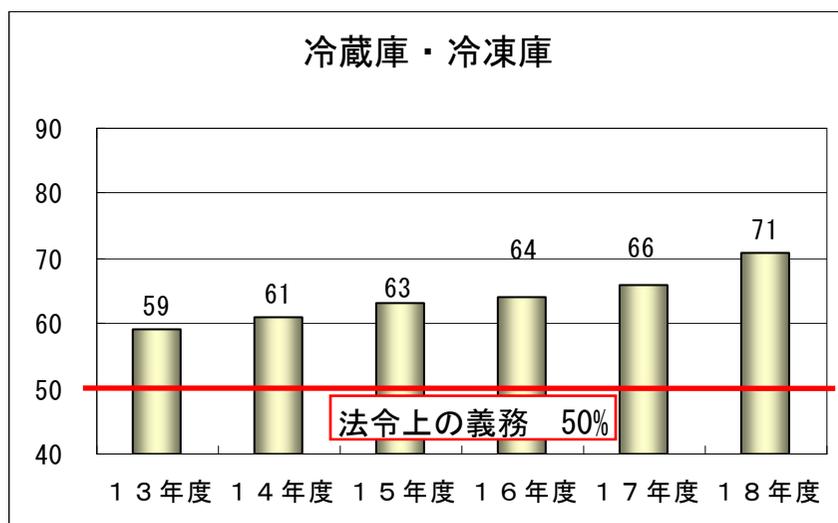
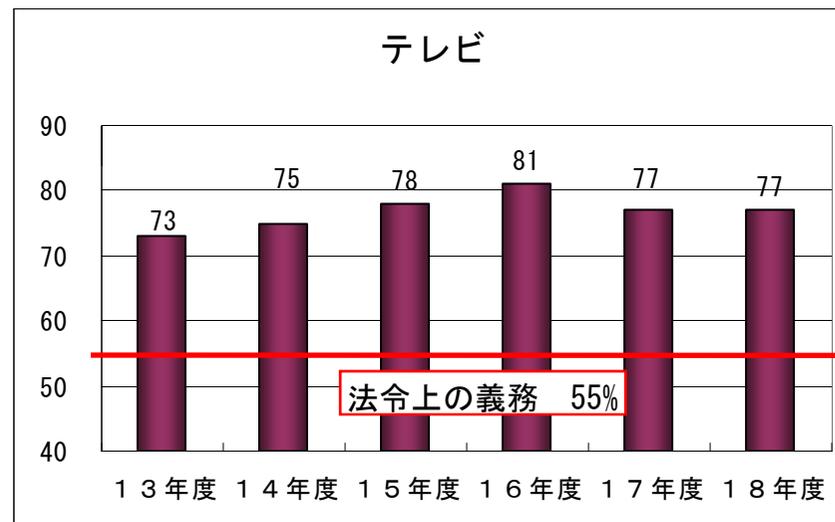
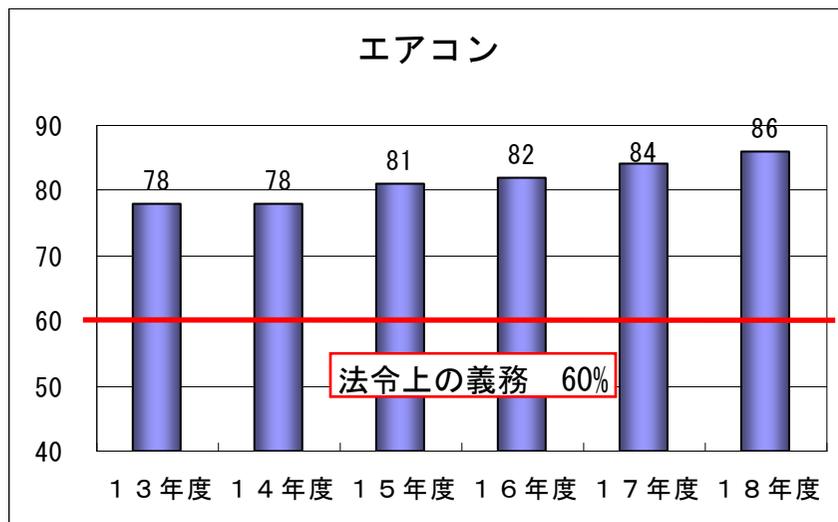
<参考2>リターナブルびんの例

日本酒、焼酎、洋酒、清涼飲料、牛乳、1.8Lびん

出典: 全国びん商連合会

Recycle: 家電リサイクル法

<廃家電の再商品化率の推移>

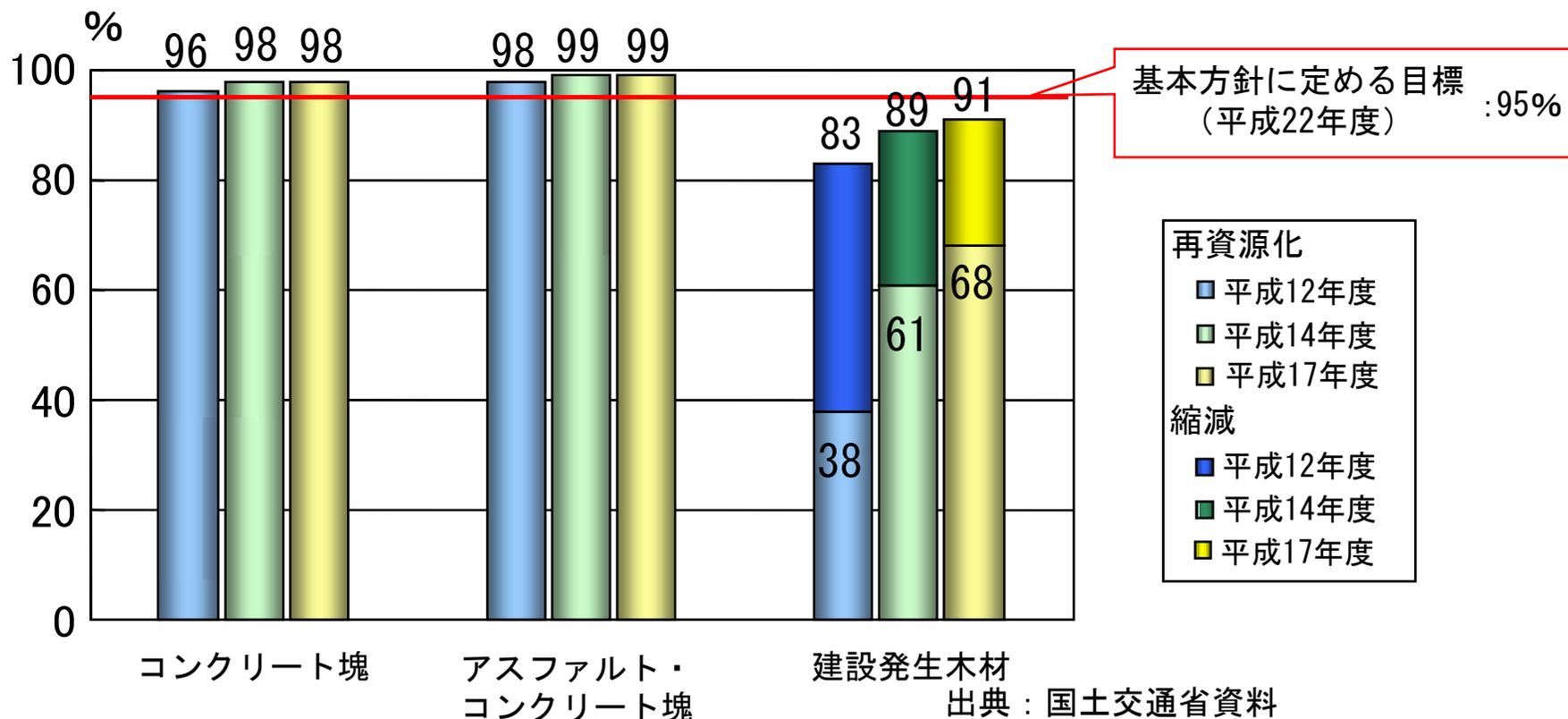


※平成17年度のテレビの再商品化率の低下は、ブラウン管ガラスメーカーが海外移転したことに伴い、一部が再商品化量としてカウントできなくなったことによる。

出典：環境省、経済産業省資料

Recycle: 建設リサイクル法

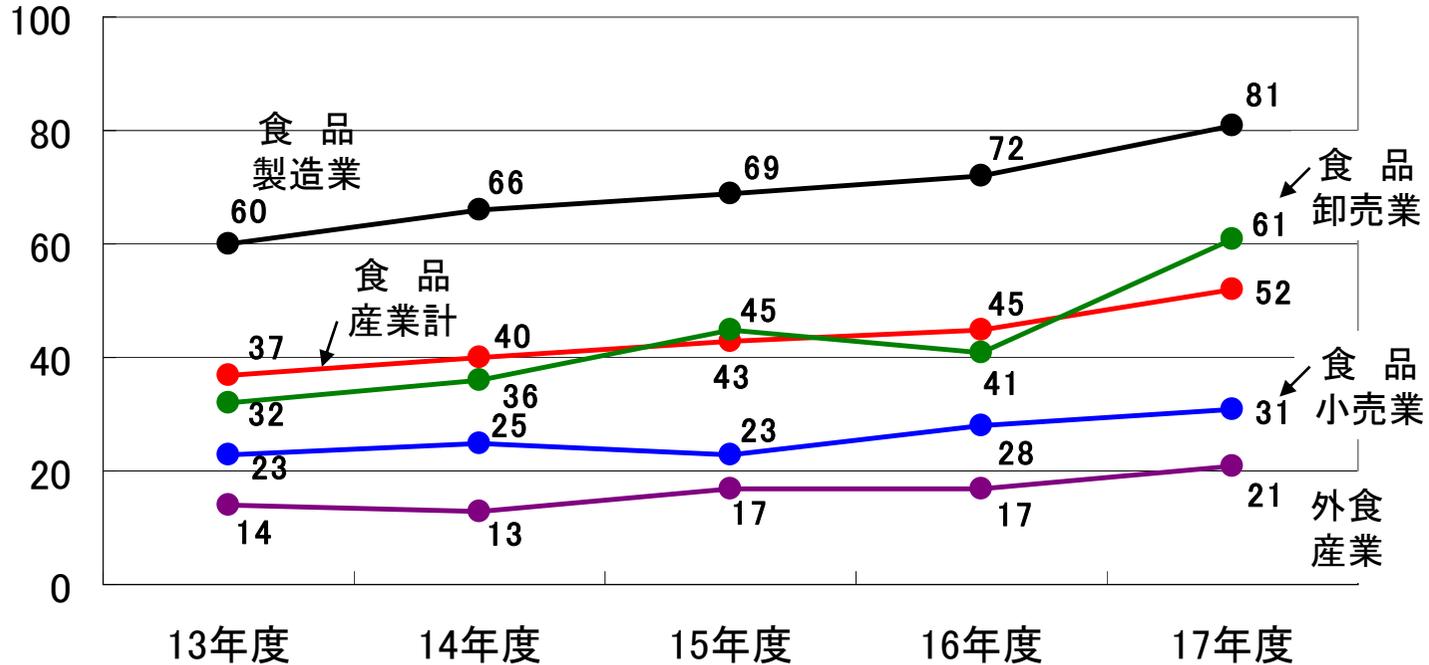
<建設廃棄物の再資源化等率の推移>



※建設リサイクル法は、平成14年5月に施行されたが、法の附則において、施行後5年を経過した場合において、施行の状況について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとされている。
 平成19年11月より、国土交通省とともに、建設廃棄物の再資源化の促進等に関して見直しのための検討を行っているところ。

Recycle: 食品リサイクル法

<食品循環資源の再生利用等実施率の推移>



※ 「再生利用等実施率」とは、食品関連事業者から発生する食品廃棄物等の量のうち
 ①発生抑制、②再生利用、③減量 がなされた量の割合である。

	実施率目標達成者割合(平成17年度実績)	
	全体	食品廃棄物等多量発生事業者
食品製造業	22%	33%
食品卸売業	18%	32%
食品小売業	17%	22%
外食産業	10%	13%
食品産業計	18%	27%

<自動車リサイクルの実施状況>

(1) フロン類・エアバッグ類・シュレッダーダストの引取報告件数

品目種別	引取報告件数 (万件)	
	平成18年度	平成17年度
フロン類	247	211
エアバッグ類	72	46
シュレッダーダスト	299	241

(2) 自動車メーカー等によるエアバッグ類・シュレッダーダストの再資源化率

目 標	再資源化率 (%)	
	エアバッグ類	シュレッダーダスト
目 標	85	70 (平成27年～) 50 (平成22年～) 30 (平成17年～)
平成18年度	93.5~95.1	63.7~75.0
平成17年度	93.0~94.7	48.0~70.0

(3) リサイクル料金の預託状況

出典:環境省、経済産業省資料

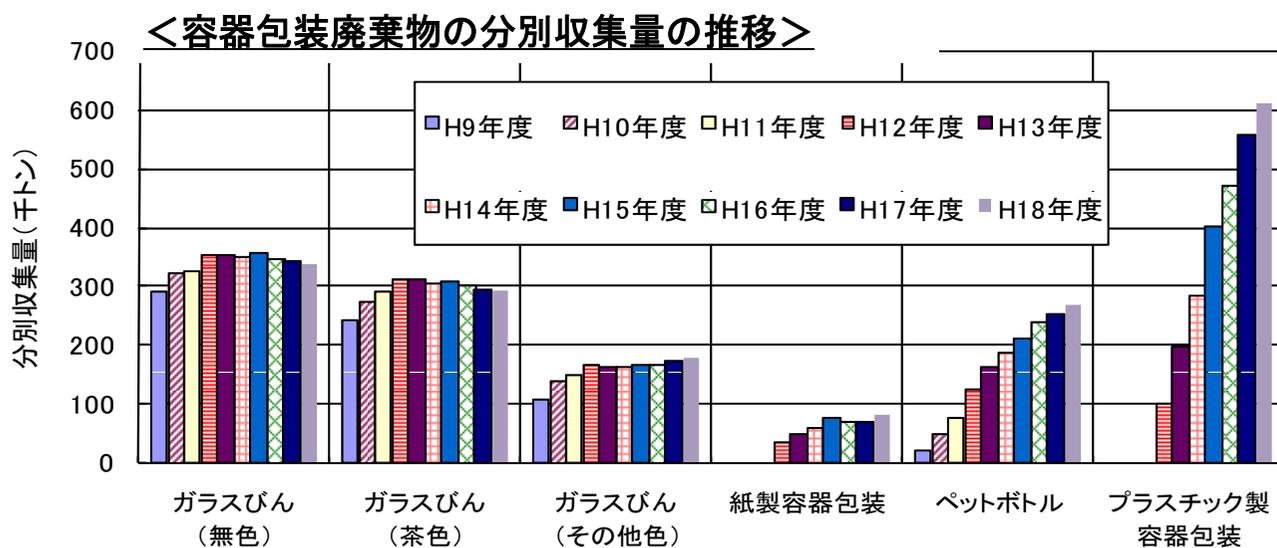
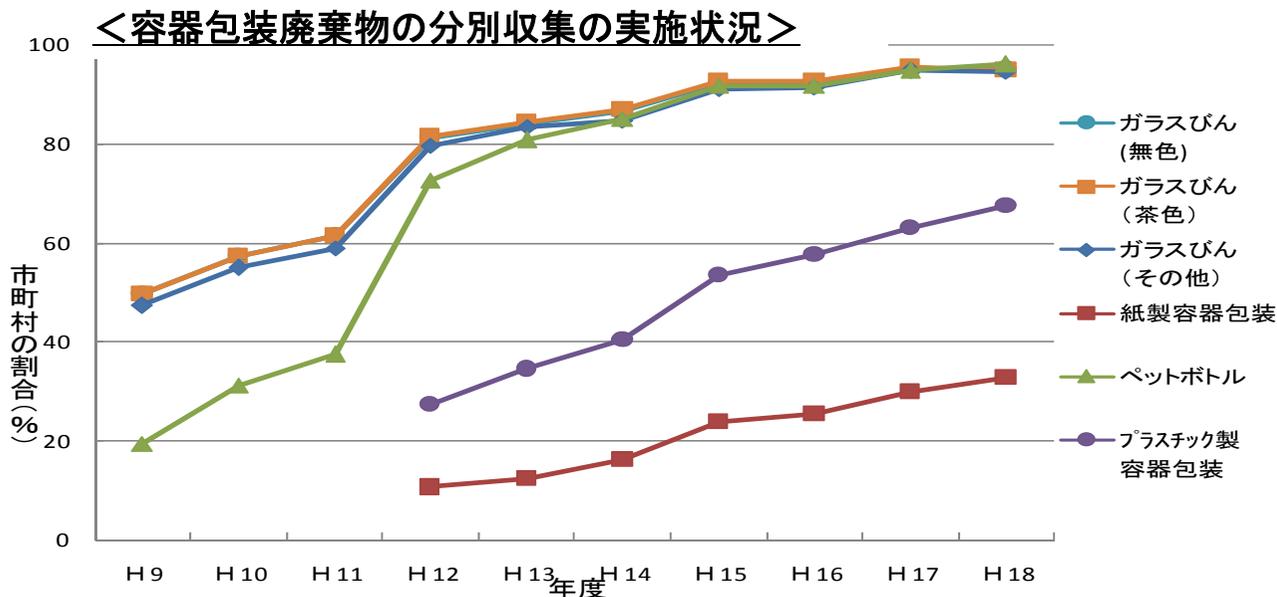
預託種別	預託台数 (万台)		預託金額 (億円)	
	平成18年度	法施行後 累計	平成18年度	法施行後 累計
新車登録時	563	1,324	622	1,455
車検時	2,077	5,968	2,060	5,704
引取時	206	509	151	389
合 計	2,845	7,801	2,833	7,548

※自動車リサイクル法は、平成17年1月に本格施行されたが、法の附則において、施行後5年以内に、施行の状況について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとされている。

Recycle: 容器包装リサイクル法・容器包装の分別収集実施自治体率

<現状>

- ・分別収集に参加する自治体数や分別収集量は着実に増加。
- ・H12年度開始のプラスチック製容器、紙製容器包装の分別収集は増加傾向にあるが、未実施の自治体も多い。



Recycle: リサイクル(リサイクル率)取組の上位10位市町村

＜自治体＞リサイクル取組上位10市町村

(単位:%)

人口10万人未満		人口10万人以上50万人未満		人口50万人以上				
1.	宮崎県 椎葉村	77.2 %	1.	神奈川県 鎌倉市	48.6 %	1.	東京都 八王子市	27.7 %
2.	長野県 筑北村	75.8 %	2.	岡山県 倉敷市	48.5 %	2.	愛知県 名古屋市	25.5 %
3.	長野県 平谷村	74.7 %	3.	東京都 調布市	43.6 %	3.	神奈川県 横浜市	24.6 %
4.	鹿児島県 志布志市	73.1 %	4.	東京都 小金井市	39.6 %	4.	千葉県 千葉市	22.9 %
5.	徳島県 上勝町	72.2 %	5.	新潟県 長岡市	38.9 %	5.	埼玉県 さいたま市	22.4 %
6.	鹿児島県 大崎町	69.6 %	6.	神奈川県 横須賀市	38.8 %	6.	千葉県 船橋市	21.0 %
7.	新潟県 小千谷市	68.0 %	7.	千葉県 我孫子市	37.7 %	7.	兵庫県 姫路市	20.5 %
8.	北海道 本別町	65.5 %	8.	神奈川県 海老名市	37.3 %	8.	静岡県 浜松市	19.8 %
9.	長野県 清内路村	64.2 %	9.	東京都 三鷹市	37.1 %	9.	新潟県 新潟市	17.8 %
10.	長野県 川上村	61.1 %	10.	東京都 国分寺市	35.4 %	10.	静岡県 静岡市	16.9 %

＜参考＞リサイクル率定義

リサイクル率=(直接資源化量+中間処理後再生利用量+集団回収量)
 / (ごみ総排出量+集団回収量) × 100 (%)

品目別ガイドライン 取組状況一覧 【目標及び今後の取組】

1. 紙	古紙利用率 62% [H22年度]	18. カセットボンベ	中身残留缶対策の実施
2. ガラスびん	カレット利用率 91% [H22年度]	19. エアゾール缶	中身残留缶対策の実施
3. スチール缶	リサイクル率85%以上維持	20. 小形ガスボンベ	適正処理のための広報の実施
4. アルミ缶	回収・再資源化率 85%以上維持	21. 消火器	回収率 60% [H17年度]
5. プラスチック	PETボトル回収率 80%以上 [H26年度]	22. ぱちんこ遊技機	マテリアルリサイクル目標率 55% [H17年度] (ぱちんこ遊技機及び回胴式遊技機)
6. 自動車	リサイクル率 85% [H14年～H26年]	23. パーソナルコンピュータ 及びその周辺機器	再資源化率 [H15年度] デスクトップ型 50%、ノートブック型 20% CRTディスプレイ 55%、LCDディスプレイ 55%
7. オートバイ	リサイクル率 85% [H14年～H26年]	24. 複写機	共同回収システムの拡大を検討中
8. タイヤ	リサイクル率 90%以上 [H17年]	25. ガス・石油機器	アセスメントガイドラインの見直し
9. 自転車	リサイクル可能率 67%	26. 繊維製品	リサイクルシステム構築に向け検討中
10. 家電製品	再商品化率 エアコン 60%、テレビ 55%、 冷蔵庫50%、洗濯機50%	27. 潤滑油	分別方法を検討し、リサイクルの効率化を図る
11. スプリングマットレス	リサイクルシステム構築に向け検討中	28. 電線	配電線のリサイクル向上に向けた取組実施
12. オフィス家具	3Rの推進に向けた具体的方策を検討中	29. 建設資材	塩ビ管継手の受入拠点の拡充
13. カーペット	工程内発生屑 H13年度比20%減[H18年度]	30. 浴槽及び浴室ユニット	材料情報の提供方法等について検討中
14. 布団	工程内原材料くず 4.5%～4%以下に削減	31. システムキッチン	材質表示方法等について検討中
15. 乾電池・ボタン電池	回収箱を6,000個作成・配布	32. 携帯電話・PHS	回収・リサイクル目標値の設定を検討中
16. 小形二次電池	再資源化率 小形シール鉛蓄電池 50%、ニカド電池 60%、 ニッケル水素電池 55%、リチウム二次電池 30%	33. 蛍光灯等	小形・高効率化、長寿命化開発の実施
17. バッテリー	リサイクルシステムの再構築に向けた検討の実施	34. 自動販売機	用管理物質を定め使用状況の把握を行う
		35. レンズ付きフィルム	回収の促進に向けた取組を実施

※着色部分の品目については資源有効利用促進法で指定